昭和天皇のゆかりの地を訪ねて

群馬・富岡製糸場

わが国の生糸は安政六（一八五九）年の開港を契機に輸出されるようになり、「富国強兵・殖産興業」の二大国策を掲げた明治政府は「生糸の輸出振興」に方途を求めました。蚕糸業は戦後の復興にも大きな役割を果たし、昭和天皇はいち早く群馬県富岡市の富岡製糸所（場）に行幸、激励されています。製糸場は明治五（一八七二）年の開設。昭和六十二（一九八七）年三月に操業を停止し百十五年の歴史に幕を閉じましたが、国史跡、国の重要文化財としてほぼ往時のまま保存されており、最近、ユネスコ世界遺産暫定一覧表に記載されて注目が集まっています。

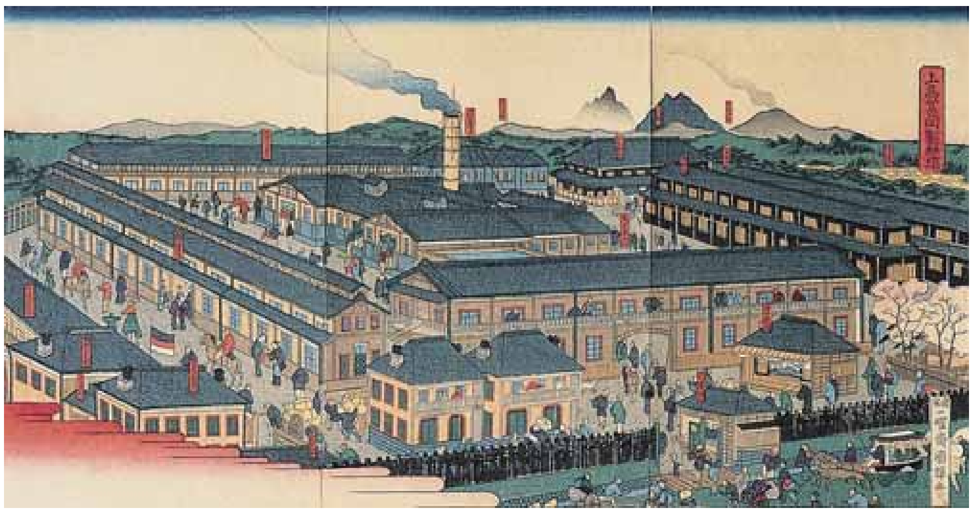
（菅原　順臣）

昭和天皇が行幸された富岡製糸所【注1】は明治政府が設置した日本初の官営製糸場です。当時、日本の生糸製造は手作業。外国からの買いつけが急増、生産が追いつかない状態でした。いきおい生産者の粗製乱造が進み評価は下がる一方。それでいて生糸の価格は急騰する事態となりました。そこで政府は模範工場を建設し、品質の良い生糸の大量生産に乗り出すことを決めました。

政府は模範工場の建設にあたり、①洋式の製糸機械を導入する②外国人の指導者を起用する③工女を募集して技術を伝習させ、各生産地の指導者とする—などの考えを固めました。明治三（一八七〇）年、横浜のフランスの商館に勤務していた技師、ポール・ブリューナを雇い入れ、適地を探した結果、上州富岡と決定しました。工場の設計は横須賀製鉄所の建設に携わったオーギュスト・バスチャンを任命し、わずか五十日ほどでまとめました。富岡は周囲が活発な養蚕地で、優良な原料繭が確保できる▽広大な代官陣屋跡地やその周辺の土地が用地として買収でき、住民の理解や協力が得られる▽製糸に必要な用水が確保できる▽燃料の石炭が近くの高崎で採掘できる—などが建設地選定の理由でした。

工場建設は翌年から木材で骨組みしてレンガを積む木骨レンガ造工法で進められ、一年後の七月には主要な建物が完成。十月四日、歴史的な操業が開始されました。繭を生糸にする巨大な繰糸場にはフランス製の繰糸器が備えられ、全国から集められた工女（十五歳〜二十五歳）が器械製糸に従事しました。もっとも工女は最初から順調に集められたわけではありません。フランス人指導者らが飲むワインを血と思い込み、「生き血を採って飲む」というデマが流れ、工女募集が難航した時期もありました。しかし、工女たちは伝習生としての誇りを高く持ち、技術を習得した後は各地で器械製糸工業の発展に大きく貢献しました。

産出される生糸は高品質で、輸出先では大好評でした。ただ、規模の過大さからくる赤字体質はなかなか改善されず、全期間を見れば黒字経営だったものの、明治二十六（一八九三）年、模範工場としての役割を終えたとして三井家に払い下げられました。その後、同三十五（一九〇二）年には原合名会社に譲渡され、昭和十四（一九三九）年には日本最大の製糸会社だった片倉製糸紡績会社（後の片倉工業）に合併されました。幸い戦禍は受けず、生糸生産は戦後復興の大きな一翼として期待されました。



㊤操業が開始された明治5年製作の錦絵「上州富岡製絲場」。活況がうかがわれます＝富岡市提供

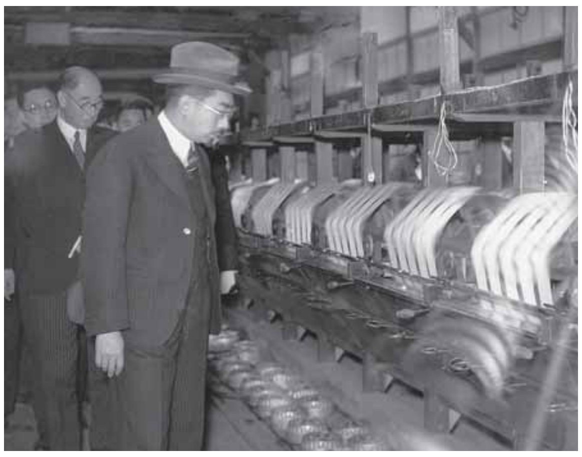
戦後復興への起動力ご視察

全国民が復興に立ちあがった昭和二十一（一九四六）年は公職追放、農地改革、労働組合結成が急テンポで進みます。四十四歳の昭和天皇は二月十九日、神奈川県に戦後初の地方巡幸。富岡製糸所に行幸されたのは三月二十五日。この日は雲ひとつなく、気温も暖かく、まさに「暑さ寒さも彼岸まで」の陽気。陛下は背広に中折れ帽スタイルで午前八時十分、原宿駅からお召し列車で出発され、高崎駅に同十時十五分ご到着。同駅から自動車で富岡製糸所に向かわれました。途中、国立高崎病院に立ち寄られ、入院患者や病院スタッフを激励。製糸所には午前十一時二十七分にお着きになりました。

陛下は片倉三代目の片倉兼太郎社長や矢崎京二工場長（第十七代）、従業員、県下の蚕糸関係者らの熱烈な出迎えを受けられながら御座所に着席。片倉社長から製糸所の概要説明を受けられた後、同社長らの先導で撰繭所、乾繭場、煮繭室、繰糸所（当時の呼称）…と巡覧され、熱心にご質問を重ねられました。

御座所に戻られる時、廊下で奉迎のため整列していた県下の蚕糸関係者には「食糧輸入の見返り物資として大事であるから生産に十分努力するように」などと声をかけられ、一同は大感激します。

陛下は御座所で昼食を取られた後、午後零時三十五分、次の行幸地である堤ヶ岡開墾地、前橋市、群馬県庁などに向けて出発されました。

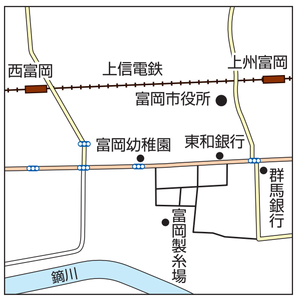


親しくご視察になる昭和天皇
＝共同通信社提供

明治の雰囲気が漂う東繭倉庫の外観＝富岡市提供

富岡工場（製糸所）は平成十七年十月、片倉工業から富岡市に移管され、繰糸場、東・西繭倉庫、事務棟（2、3号館）、ブリューナ館などの主要建物はほぼ建設当時の状態で保存されています。

明治国家を支え、生糸生産の近代化に貢献した、東洋に現存する模範工場、木骨レンガ造という他にあまり例のない大規模な建造物群…。また、県内には絹産業の遺産群が広がり、繭や生糸の輸送を担った鉄道や倉庫が残っています。群馬県はそれらの遺産を「富岡製糸場と絹産業遺産群【注2】」として世界遺産に登録するための世界遺産推進室を設けて活動中。昨年一月三十日付で世界遺産暫定一覧表に記載され、今後の進展が期待されているところです。



【注1】 富岡製絲（糸）場の名称は明治九（一八七六）に富岡製絲所になり、その後、三井富岡製糸所、原同、（株）同、片倉同、片倉工業株式会社同、昭和三十六（一九六一）年一月に片倉工業株式会社富岡工場に。

【注2】富岡製糸場と絹産業遺産群　具体的には▽養蚕関係　薄根の大クワ・荒船風穴・栃窪風穴・高山社発祥の地・富沢家住宅・赤岩地区養蚕農家群▽製糸関係　旧甘楽社小幡組倉庫・富岡製糸場▽流通関係　碓氷峠鉄道施設＝**写真㊦**＝・旧上野鉄道関連施設—という十の遺産です。

●主な参考文献

☆「聖駕を迎へ奉りて」（知事北野重雄謹記）
☆「群馬縣行幸に對する感想録」
☆「富岡工場の沿革」（片倉工業株式会社）
☆「富岡製糸場の歴史と文化」（みやま文庫）

●富岡製糸場メモ

☆見学料　大人五百円、高校大学生二百五十円、小中学生百五十円
☆見学時間　9時〜17時（入場16時半まで）
☆休場日　12月29〜31日（他に臨時休場あり）
☆アクセス　東京から上越・長野新幹線で高崎まで約60分、上信電鉄で上州富岡駅まで約30分、同駅から富岡製糸場まで徒歩約10分
☎　0274・64・0005
☆周辺には妙義神社や群馬サファリパーク

昭和天皇記念館にようこそ！

「あなたと健康」創立35周年記念で東城百合子主幹とリーダーの皆さまが見学
（平成20年４月13日）

昭和聖徳記念財団の会員でもある江戸消防記念会支部の皆さまがバス２台を連ねて来館、見学後は武蔵陵墓地へ
（平成20年４月17日）